

1961年1月16日第3種郵便物認可 1998年1月1日 第435号 (毎月1回1日発行1部50円)

(加盟団体関係者の講読料については、負担金に含まれている。)

全



仏

仏暦2541年1月
(1998年)

NO.435



バンコクのWFB本部で開催されたWFB執行委員会
(関連記事2～3頁)

財団法人 **全日本仏教会**

JAPAN BUDDHIST FEDERATION

WFB 執行委員会

シドニーで第20回WFB大会開催

LDTへは考古学レポート提出

十二月三日より六日までタイ王国バンコク市内のWFB本部にて第五十六回WFB執行委員会が開催された。



LDT副理事長へレポートを提出する川島委員

本会より、ルンビニー委員会企画・渉外担当の川島宏之委員及び、本会派遣の考古学者上坂悟氏、並びに吉橋国際文化部長、深澤次長が出席した。

今般の会議ではかねてより、提出を約束していたレポートをLDTへ提出した。

レポートはマヤ堂遺跡の所見（一九九二年より九六年まで実施された調査記録）と提言（遺跡の保護とマヤ堂の復元について）からなり、特に提言の章では、先の理事会で承認された、ルンビニーマスタープラン設計者の丹下健三氏へ設計を依頼すること等も、触れられている。このレポートを、WFB執行委員会にルンビニー開発の報告の為に出席したLDT副理事長ラマ氏へ川島委員より手渡し、あわせてWFBへ本会のマヤ堂修復事業の経過を説明、各国のWFB執行委員へもレポートが配布された。

本会はLDTへ、このレポートに対する返

謹賀新年

財団法人 全日本仏教会

会長 高井隆秀
副会長 田中日淳

理事 松山寛恵
宮部亮信
森田禅朗
田丸徳善
白幡憲佑

常務理事

乙川良英 森和久
豊原大成 北條成之
能邨英士 海老原容光
成田有恒 川井匡俊
永井祥文 新居祐政
細川景一 藤居光賢
楠川宗親 鳥居慎誉
横山敏明



東京グランドホテルで開催された常務理事会

常務理事会開催

信を要求、すなわち、丹下氏を承認することと、丹下氏と話し合えるネパールの建築家を紹介することを要請した。

各国委員より本会が提示したレポートに対して、特に丹下健三氏が復元されるマヤ堂の設計に関わることに、賛同の声が上がった。

WFB本部及びWFB執行委員会は、本会の立場を十分に理解し、今後の本会の事業に対する協力を約束し、ネパールに対して、事業の早期完遂を要請した。

レポートがLDITへ提出されたことにより、復元へ向けて大きな前進となったことを出席者へ印象づけた。

また、懸案事項であった、WFB世界大会について話し合われた。第二十回世界大会は開催予定国、韓国の突然の辞退によって二年間開催が延期されていたが、討議の結果、来年十月二十九日より十一月三日の日程でオーストラリアのシドニーの仏光山で開催される事が決定した。

去る十二月二日午後三時から、東京グランドホテルで、常務理事会が開催された。

白幡理事長を議長に、海老原容光、楠宗親の両師を議事録署名人を選んで議事に入った。議案「平成十年度事業計画案・収支予算案の大綱について承認を求める件」

白幡議長より上程。田中総務部長及び鷺尾財務部長が説明。原案通り承認された。

報告事項

- ①ルンビニー委員会報告
川島宏之ルンビニー委員より、新マヤ堂に関するネパール側との折衝経過が報告された。
- ②事務総局各部報告
各担当部長より、報告された。

理事

洞外文隆
安藤正晃
五十嵐意承
大嶋俊明
建部龍憲
増田貞圓
志鶴秀邦

吉田英哲
長谷川謙信
白川政昭
藤田文有
岩田寛康
高見寛

監事

山田俊和
島田喜久子

河野亮永

事務総局

事務総長 荒川正憲
総務部長 田中光成
財務部長 鷺尾幸雄
同和推進部長 伊東俊彦
社会部長 野生司祐宏
国際文化部長 吉橋勝寛
総務部次長 渡邊宗徹
財務部次長 三浦章興
同和推進部次長 大谷常淳
社会部次長 壽山良光
国際文化部次長 深澤照生
主事 水野和子

第九回加盟団体代表者同和研修会開催

「差別法名・戒名」に関する現地研修会を実施



丸子町内寺院の合祀塔

十一月十二日、十三日の二日間、長野県丸子町・佐久市内において、第九回加盟団体代表者同和研修会が開催され、十五団体三十六名の宗務行政責任者が参加した。今回のテーマは、仏教界に山積する諸課題の中、最も緊急課題である「差別法名・戒名」の改正に係わる課題であり、問題の指摘を受けて以来、間もなく二十年を迎えようとしている現在も多くの事象が未解決の状況である。かつて、八年前にも「差別法（戒）名」に関する現地研修会を実施したが、取り組みの出発点を再確認し、より積極的・主体的取り組みを推進するために再度現地研修会を開催した。

一日目は、丸子町解放センターにおいて二つの講演があり、初めに部落解放研究所宗教部会幹事・松根鷹氏を講師に迎え「差別法名・戒名について」と題して講演が行われた。松根氏は、檀家制度（家制度）や葬送儀礼の変化など宗教環境を取り巻く状況の変化を前提に、具体的な差別法名・戒名の事例を説明

した。併せて各宗派の改正状況を紹介し、終わりに、時代に即した葬送儀礼、とりわけ「戒名問題」の再検討を要望した。

引き続き、部落解放同盟丸子町協議会書記長・太田義明氏により「差別墓石改正の取り組みについて」をテーマに講演が行われ、丸子町の概要や差別墓石の移転経緯について説明があった。太田氏は、「丸子町の墓地には、三百年以上にわたる古い墓石が乱立しているうえ、差別法（戒）名が刻まれている墓石が数多くある。これらの墓石をこのままの状態に残しておくことは、興信所等による身元調査に悪用され、差別の再生産につながると考えられる。そこで、差別法（戒）名の刻まれた墓石を『壊さない・埋めない・隠さない』を原則に菩提寺に移転・安置するとともに墓地整備を行い、差別をなくすための共有教材として大切に保存・供養する。」と説明した。その後、太田氏の案内により丸子町内の二カ所の墓地にて、墓参を実施した。参加者は、差別法（戒）名が刻まれた墓石に触れ、改めて差別の厳しさや深さを痛感した。

「二十一世紀を人権の世紀に！」

二日目は、佐久市内で、部落解放同盟中央本部書記長・組坂繁之氏により「人権フォーラム21」をめぐって」をテーマに講演が行

講演する組坂繁之氏



全 仏
 われた。組坂氏は去る十一月十日に東京で開催された同フォーラムの設立総会の模様を披露した。「昨年の『人権擁護施策推進法』の制定にもとずいて本年五月に設置された『人権擁護推進審議会』は五年をめどに答申を出すことになっている。『人権フォーラム21』は、国内外の差別の実態をふまえて、幅広い意見を集約し、日本の人権政策のあり方につ

いて、広く各方面に政策提言を提示していくために結成された。代表には、武者小路公秀氏（反差別国際運動日本委員会理事長）をはじめ、学者、ジャーナリスト、弁護士、反差別各団体、宗教関係者など幅広い参加を呼びかけた。二十一世紀を人権の世紀にする高い目標と同時に、政府の審議会に民間の立場から協力するという現実的な仕事も、このフォ



差別墓石を見る参加者

ーラムにはある。」と説明し、今後の活動内容や仏教界からの更なる参加協力を要請した。その後、組坂氏との懇談の後、二日間の研修会を終了した。

法律相談室

全日本仏教会では、左記の要領で、長谷川正浩弁護士による無料法律相談室を開設しています。相談内容は、寺院運営をめぐる諸問題、税務、一般民事等、ご自由ですが、現在、宗教学人法の改正に伴い、相談件数が増えています。相談をご希望される方は、必ず、電話で予約をお願いいたします。

◆日時 毎月第二・第四木曜日

午後一時より

◆場所 全日本仏教会事務局

(港区芝公園四一七一四)

◆電話 〇三三四三七九二七五

年 新 賀 謹

浄土宗

浄土門主 中村康隆
 宗務総長 成田有恒
 総務局長 江口定信
 教学局長 袖山榮眞
 財務局長 近藤正也
 社会局長 吉田昭壽
 東京事務所長 八木季生
 総長公室長 能登原賢史
 出版室長 小林正道
 同和推進 出口芳演
 同和推進 境 順正
 事務局参与 職員 一同

臨濟宗妙心寺派 宗務本所

管 長 松山寛惠
 宗務総長 細川景一
 総務部長 後藤牧宗
 教学部長 藤原東演
 財務部長 瀬古眞隆
 本部園長 微笑義教
 法務部長 津田清章
 花園會 見浦宗山
 館部 長

真言宗豊山派宗務所

管 長 濱野堅照
 宗務総長 鳥居慎譽
 教務部長 若槻繁隆
 総務部長 浅井侃雄
 教化部長 中川祐聖
 財務部長 鶴晃秀
 教化センター 長 小野塚幾澄
 教化センター 事務局長 田代弘興

日蓮宗宗務院

管 長 田中日淳
 宗務総長 永井祥文
 宗務副総長 岩間湛正
 綜合企画 部長 渡邊清明
 庶務部長 栗原正震
 財務部長 星光喻
 教務部長 斎藤邦昭
 護法伝道 部長 小倉光雄
 立教開宗 七五〇年慶 賀会事務局 長 新井貫厚
 現代宗教 研究所長 石川浩徳
 国際開教 室長 上田尚正
 人權対策 室長 大乘文延
 参 与 堀江宏正
 参 与 浅井玄裕

浄土宗宗務庁
 京都市東山区林下町四〇〇一八
 〒605-0062 〇七五(五二五)二二〇〇
 FAX 〇七五(五三二)五一〇〇五
 浄土宗東京事務所
 東京都港区芝公園四一七一四
 〒105-0011 〇三三(四三六)三三五一
 FAX 〇三三(四三四)〇七五四

京都市右京区花園妙心寺町六四
 〒616-8035 〇七五(四六三)三二二二

東京都文京区大塚五一四〇一八
 〒112-0012 〇三(三九四五)〇六三九

東京都大田区池上一三二一一五
 〒146-8544 〇三(三七五)七一八一
 FAX 〇三(三七五)七一八六

謹 賀 新 年

總本山 金剛峯寺
高野山真言宗務所

座長	稲葉義猛	管長	新居祐政	執行	田岡照遍	總務	北原裕康	執學	川島宏之	財務	山口耕榮	法會	山久利康彰	山林	久利康彰	內務	常岡弘雄	總務	佐々木兼俊	同和	佐々木兼俊	局長	伊勢木俊真	企畫	近藤堯寬	教学	近藤堯寬	東京別院	壽山良知	東京宗務	壽山良知	出張所	壽山良知	堀川別院	佐々木弘傳	京都宗務	佐々木弘傳	出張所	佐々木弘傳	高野山弘法大師	服部融宣	法贊會	服部融宣	事務所	服部融宣
----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	-------	----	------	----	------	----	-------	----	-------	----	-------	----	------	----	------	------	------	------	------	-----	------	------	-------	------	-------	-----	-------	---------	------	-----	------	-----	------

和歌山県伊都郡高野山一三二
〒648-0294 ○七三六(五六)二〇一一
FAX ○七三六(五六)四六四〇

真言宗智山派宗務所
總本山智積院法務所

管長	近藤隆敬	宗務	楠宗親	教化	阿刀隆信	總務	小林照宥	教学	田村正規	法務	馬場修任	財務	小川純夫	宗務	鈴木中也
----	------	----	-----	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------

京都市東山区東大路七条下ル
東瓦町九六四
〒605-0951 ○七五(五四)一五三六一

大本山 南禅寺
南禅寺派宗務本所

管長	塩澤大定	宗務	虎山秀禪
----	------	----	------

京都市左京区南禅寺福地町
南禅寺派宗務本所
〒606-8435 ○七五(七七)〇三六五

真言宗大覚寺派
大本山 大覚寺

管門	片山有雄	宗務	廣安俊道
----	------	----	------

京都市右京区嵯峨大沢町四
〒616-8411 ○七五(八七)〇〇七一

孝道山 本仏殿

統理	岡野正貫	副統	岡野鄰子
----	------	----	------

横浜市神奈川区鳥越三八
〒221-0064 ○四五(四三)一一二〇一

青森県佛教会

會長	黒滝信行	總企	花田誠三
----	------	----	------

青森県弘前市西茂森一十二一三
宗徳寺内
〒036-8273 ○一七二(三三)四四三七
FAX ○一七二(三五)〇〇二八

年 新 賀 謹

總本山仁和寺
真言宗御室派

管門
長跡 吉田裕信

執行
宗務總長 倉信隆源

執行
總務部長 堀川和海

執行
教學部長 高松龍暉

執行
財務部長 佐伯增恒

京都市右京区御室大内三三
〒616 8092 ○七五(四六一)一一五五
FAX ○七五(四六四)四〇七〇

愛媛県仏教会

會長 植田英瑞

副會長 谷本祥龍

同 吉川俊宏

監事 一ノ宮恵然

同 藤方大進

事務局長 川井甫孝

會計 松本信見

役員 一同

松山市星岡町四二五一一
〒790 0922 ○八九(九五六)〇九六七
延立寺内

信貴山真言宗
總本山信貴山朝護孫子寺

代表管長 鈴木風永

管長 田中真瑞

宗務長 鈴木貴晶

總務部長 野澤密孝

奈良県生駒郡平郡町信貴山
二二八〇一一

〒636 0923 ○七四五(七二)二二七七

真言宗善通寺派宗務庁
總本山善通寺

管長 高吉清順

宗務總長 檜原禪澄

香川県善通寺市善通寺町
〒765 8506 ○八七七(六二)〇二一一
三一三一

京都仏教会

會長 東伏見慈治

理事長 有馬頼底

京都市上京区今出川通烏丸東入
相國寺門前町六八四一一
〒602 0898 ○七五(二三三)六九七五
FAX ○七五(二三三)六九七六

岐阜県仏教会

岐阜市西野町三一

本願寺岐阜西別院

南門入口

〒500 8882 ○五八(二六六)七八〇三
FAX ○五八(二六六)七八〇三

年 新 賀 謹

黄檗宗大本山萬福寺
黄檗宗宗務本院

管 長 林 文 照

宗務総長 赤 松 達 明

財務部長 中 島 義 晃

庶務部長 中 澤 元 重

教学部長 秦 旭 光

宇治市五ヶ庄三番割三四
〒611-0011 ○七七四(三三)三九〇〇
FAX ○七七四(三三)六〇八八

大阪府佛教会

会 長 吉 田 英 哲

副 会 長 増 田 貞 圓

同 北 村 日 照

同 卜 半 幸 三

同 長 洲 眞

事務局長 井 桁 雄 弘

大阪市住吉区墨江三丁目十七番八号
大圓寺内
〒558-0043 ○六(六七)三二五九
六二三四
FAX ○六(六七)三二五〇〇四

真言宗須磨寺派
大本山須磨寺

貫 主 小 池 弘 三

寺 務 長 吉 井 恵 貫

神戸市須磨区須磨寺町四一六一八
〒654-0071 ○七八(七三)〇四一六

臨濟宗円覚寺派

大 本 山 円 覚 寺

鎌倉市山ノ内四〇九
〒247-0062 ○四六七(二二)〇四七八

愛知県仏教会

会 長 岩 田 文 有

副 会 長 玉 井 康 之

同 近 藤 眞 道

同 岡 田 泰 成

日進市岩崎台一―二二四〇
観音寺内
〒470-0135 ○五六一七(二)三二五八

兵庫県仏教会

会 長 高 見 寛 康

副 会 長 大 谷 昭 世

同 衣 笠 諦 道

事務局長 市 村 隆 玄

神戸市灘区原田通三丁目五―十八
金剛福寺内
〒657-0837 ○七八(八六)四〇四四

謹 賀 新 年

顕本法華宗

管 長 吉 永 日 晴

宗務総長 中 山 昭 夫

宗務次長 山 本 学 人

財務部長 白 井 謙 光

布教部長 大 川 定 信

社会部長 鈴 木 無 着

教務部長 奥 村 智 学

庶務部長 三 坂 岳 応

京都市左京区岩倉幡枝町九十一
〒606-0015 〇七五(七九一)七二七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

神奈川県仏教会

会 長 小 崎 龍 雄

副 会 長 横 山 敏 明

同 柳 下 隆 侃

同 佐 藤 行 信

同 滝 川 覚 道

事務局長 丸 山 邦 雄

横浜市中区大平町九六 西有寺内
〒231-0859 〇四五(六六一)〇一六六

聖観音宗 浅草寺

貫 首 清 水 谷 孝 尚

執 事 長 小 岩 井 貫 承

東京都台東区浅草二―三―一
〒111-0032 〇三(三八四二)〇一八一
FAX 〇三(三八四五)六九三三

東京都仏教連合会

会 長 駒 野 教 格

理 事 長 白 川 謙 敬

事務局長 加 藤 隆 宣

東京都品川区西五反田
三―五―十五 徳藏寺内
〒141-0031 〇三(三四九一)二五七一
FAX 〇三(三七七九)五〇八四

全日本仏教青年会

理 事 長 矢 坂 誠 徳

事務局長 神 田 謙 光

事務局長 瀬 高 順 教

事務局長 松 本 順 司

神戸市兵庫区門口町三―四 福蔵寺内
〒652-0814 〇七八(六八二)一九五一

財団法人
国際仏教興隆協会

名誉総裁 高 井 隆 秀

理 事 長 川 井 匡 俊

事務総長 土 佐 舜 成

役 員 一 同

東京都目黒区中目黒五―二―四―五三
〒153-0061 〇三(三七二一)七六〇八
FAX 〇三(三七二一)七六七三

謹 賀 新 年

融通念佛宗
総本山大念仏寺

法管 主長 白井慈勲

宗務総長 森田昭光

教学部長 尾垣良格

庶務部長 清林義博

財務部長 今田章介

大阪市平野区平野上町
〒547-0045 〇六(七九)〇〇二二六

新潟県仏教会

会 長 中村啓識

副会長 河合憲敬

同 春日浩三

同 井上亨

同 廣川智彰

事務局長 小林秀徳

長岡市上田町二二五 徳聖寺内
〒940-0074 〇二五八(三三)一五八六

真言三寶宗
大本山清澄寺

法管 主長 坂本光謙

宗務長 國定淨運

鉄斎美術館 館長 村越英明

宝塚市米谷字清シ一番地
〒665-0837 〇七九七(八六)六六四一

念法眞教教団
総本山金剛寺

大阪市鶴見区緑三二四―三二
〒538-0054 〇六(九二)二二〇一

新義真言宗

東京都文京区湯島四一六―一二
湯島ハイタウンB―二二―一
〒113-0034 〇三(三八二四)三四六四

財団法人
日本佛教鑽仰会

理事長 中山静麿

東京都板橋区舟渡四一五―一
〒174-0041 〇三(三九六七)三二八八

北海道仏教会連盟

会 長 大嶋俊明

札幌市中央区北三条西十九―二一
本願寺札幌別院内
〒060-0003 〇一一(六一)九六二三

年 新 賀 謹

財団法人 仏教伝道協会

会長 沼田智秀

理事長 信楽峻磨

理事 梶山雄一

同 高崎直道

同 福山諦法

同 永野健

同 豊原大成

常務理事 高島孝範

監事 井上信一

同 林行雄

同 坂東性宣

東京都港区芝四丁目一四
〒108-0014 ○三三(二四五)五八五一

財団法人 埼玉県佛教会

会長 江連俊則

副会長 河野亮永

同 酒井文雄

専務理事 目黒靖淳

常務理事 勝山良盛

同 金子泰嶽

同 萩野映明

同 嘉村義正

浦和市高砂四丁目一三二一八
〒336-0011 ○四八(八六一)二二三八
FAX ○四八(八六四)六六四九

社団法人
全日本仏教婦人連盟

名誉会長 一條智光

会長 友廣和

理事長 島田喜久子

事務局長 林 恵智子

東京都豊島区北大塚二丁目一
大塚プラザビル7F
〒170-0004 ○三三(一九一)二二八九
分室〒163-0637 東京都新宿区西新宿一丁目二五
新宿センタービル37F
INAひまわり生命保険(株)内
○三三(三四四)六七九四

本門佛立宗
本山宥清寺

講 有 井上日慶

宗務総長 小山日誠

本山宥清寺
〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入
滝ヶ鼻町一〇〇五番地の一
TEL ○七五(四六三)四六二〇代
FAX ○七五(四六三)四六五一
本門佛立宗 宗務本庁
〒602-8377 京都市上京区御前通一条上る
東堅町一〇番地
TEL ○七五(四六一)一一六六代
FAX ○七五(四六四)五五九九

脳死・臓器移植シンポジウム 臓器移植法施行とその諸問題

財日本宗教連盟

十一月二十八日午後一時より、東京五反田郵便年金会館（ゆうぼうと）で、日本宗教連盟主催による「脳死・臓器移植シンポジウム」が開催された。

このシンポジウムは、脳死・臓器移植について、宗教者と医師がパネリストとして討論を行う中で、今後の課題を考へ研鑽を深め、問題を国民的な論議にまで高めることを目的とする。今回は「臓器移植法施行とその諸問題」をテーマに、約百二十名の参加者のも行われた。

※ ※ ※
午後一時、松田一日宗連事務局長より開会宣言および開催趣旨説明があり、続いて廣瀬静水日宗連理事長より挨拶、そして来賓の貝谷伸厚生省臓器移植対策室長より挨拶の後、パネルディスカッションへと移った。
初めにコーディネーターの田丸徳善氏（日宗連理事・大正大学教授）からパネリストの

紹介、続いて各パネリストより、一人約十五分間で、意見発表と問題提議がなされた。

阿部知子氏（湘南鎌倉総合病院小児科医師）は、臓器移植をめぐる世界各国の現状について、アメリカでの深刻な臓器不足を補うための脳死概念の拡大の動き、イギリスでのクローン羊の誕生などに見られる、科学技術の独走の問題に触れ懸念を示した。またインドでの臓器売買、中国の死刑囚からの臓器移植など、移植医療が生む新たな社会的不公平の問題を示唆した。続いて「脳低体温療法」などの医療技術の進展による脳死概念の見直し、疾病観に基づく「臓器移植」医療の根本的なとらえ直しの必要性を強調した。

次に、黒住一昌氏（群馬大学名誉教授）は今回制定された臓器移植法の「脳死体の臓器を移植に使う時だけ、脳死が死である」という論理の不自然さを指摘し、医学的生物学的にいえば、どんな場合でも「脳死は死である」

とした。そして臓器移植は、人工臓器の利用に比べれば最良の治療法とは言えないが、現在はまだ臓器移植医療は必要であること。そしてキリスト者の立場からは、自らの死後、遺体や臓器を他者に提供して、他者の命を救うことは善行であると説明した。

松本文六氏（天心堂へつぎ病院理事長）は今回の臓器移植法案について、死亡時刻が主治医の裁量で移動可能であり、移植の成功を図るため脳死の判定を早めることが可能であること、患者が脳死判定を拒否出来ない恐れがあること、臓器移植による国民的医療負担の増大、脳死を「人の死」とすることへの根本的懸念などを挙げた。そして今回の臓器移植法は、人の死ではない「脳死」で人の死を新たに作り出す、いわば「他人の死を待つ医療」を押し進めるものとして懸念を示した。

片山文彦氏（花園神社宮司・東京女子医大講師）は、医師、神職（宗教家）、そして子供を小児ガンで亡くした親（家族）、この三つの立場の相違によって、自身の脳死・臓器移植についての見解が変化すると述べた。そして臓器移植をスムーズに進めるために、移植医自身のドナー登録、移植コーディネイターの養成をはじめとする環境整備。被提供者に対する十分な説明と同意。医療界全体の信頼回復。以上のことが必要であると示唆した。

五反田ゆうほうとで開催されたシンポジウム



う専門家の判断に従って、脳死が個体死とされるならそれをそのまま受け入れるべきとする考え方があることを説明した。また脳死は理念として、ある「瞬間」としての死を要請しているため、その定義に様々な理解が生まれることを指摘した。また、生体臓器の他者への提供に関して、キリスト教の生命倫理においては、自己犠牲と他者利益の関連について、従来より様々な議論がなされてきたことを実例を挙げながら説明した。

藤井正雄氏（大正大学教授）は、死の判定について、医師の間でもコンセンサスが得られていない状況を挙げ、そうした状況下で我々一般人が果たして死を判断できるのかどうかという疑問を挙げた。さらに、医師への不信感が、一般の脳死に対する疑惑を増幅しているとの説明。そして死を法により規定することへの反対の意志を表明した。

また臓器移植については、仏教の立場からは賛否両論があり、他者の為の「捨身」は最高の慈悲行として称えられてきたこと、また同じ仏教の立場から、臓器移植とは生への執着で教えに反するという反対論も出てくると説明した。そして、状況に応じた倫理にもとづく臓器移植を考える必要性を改めて強調し、自身は脳死を人の死とすることに對しては疑問を呈するが、移植については嚴重な条件付

きであるが、反対していないと述べた。

休憩をはさみ、質疑応答中心に討議が行われた。そして会場の、移植コーディネーターとして移植医療の現場に立ち会っているという参加者からは、各パネリストへ、移植医療推進の立場からの意見と質疑が出された。

最後にコーディネーターの田丸氏は、脳死と臓器移植の問題に関して、①医療技術レベル、②社会的レベル、③宗教・倫理のレベルの三つの段階で考える必要を指摘した。そして②の社会的レベルでは、高度な医療技術に伴う医療費負担の問題。医者、家族、患者で成立していた医療に、新たに加わったレシピエント（臓器被提供者）、ドナー（臓器提供者）といった人間関係の問題。臓器売買、貧富の差等、社会状況による不公平の発生への懸念と公正化への努力の必要性を強調した。

そして、③の宗教・倫理のレベルでは各宗教によって脳死・臓器移植への評価が大きく異なる現状を説明した。そして生の中にはあらかじめ死が含まれ、その死につながるのが病であるとし、現在の医療の肉体的・物理的な生命維持尊重の姿勢に対して宗教的見地からの考察・提言の必要性を示唆した。そして脳死・臓器移植に関しては、今後、意見の異なる者が、相互に理解し、歩み寄りを行うことが必要となると述べ、討議を締め括った。

仏

しかし宗教家としては、やはり脳死による臓器移植は不自然なことで、妊娠中絶と共にプレーキをかけざるを得ないことなどを挙げた。そして善意によって一人の人間を救えるなら、第三者はそれに口を挟むべきでなく、多様な考え方を尊重すべきことを改めて強調した。

多井一雄氏（武蔵工業大学教授）は、まず、キリスト教倫理の立場では、死の確定は、宗教上倫理上の原則とは関係なく、医学が判定すべきとする考えのあること。また医師とい

全

大阪府佛教徒大会

去る十一月十九日、午後三時三十分より、ホテル日航大阪で、第三十二回大阪府佛教徒大会が開催された。第一部の式典では、音楽法要、府佛会員住職の在任三十年表彰、吉田英哲大阪府佛教会会長の挨拶があり、本会荒川事務総長の祝辞へと続いた。続いての第二部は、「宗教と教育ー日本の教育を論断するー戦後教育五十年の光と影」をテーマにシンポジウムが行われた。パネリストには、大村英昭・大阪大学教授、瀧藤尊教・四天王寺元管長・四天王寺国際佛教大学元学長、川崎泰資・大谷女子短期大学教授らが、またコーディネータは増田貞圓・大阪府佛教会副会長がつとめた。各パネリストからは、政教分離、信教の自由などに関わる、現代の宗教と教育の問題が多方面から提議され論じられた。

日本仏教保育協会記念祝賀会

十一月二十日、東京・ホテルセンチュリーハイアットにおいて、(社)日本仏教保育協会主催、(財)国際仏教興隆協会、鈴木出版株式会社共催で、仏教保育絵本「こどものくに」創刊三十周年とインド菩提樹学園創立二十周

年記念祝賀会が開催された。本会からは、渡邊総務部次長が出席した。午後五時からの式典では、上村映雄・日本仏教保育協会理事長、川井匡俊・国際仏教興隆協会理事長、鈴木雄善・鈴木出版社長の挨拶があり、物故者追悼と感謝状贈呈などが行われた。続いて同所で祝賀会が催され、菩提樹学園創立時の様子を納めたビデオが上映された。

ルンビニー委員会開催

去る十月三日日リーガロイヤルホテル京都にて平成九年度第二回ルンビニー委員会が開催された。佐々木副委員長の辞任にともない欠員となっていた副委員長には、曹洞宗の森和久師が満場一致で選出された。

次に、今後の方針について協議が行われた。考古学調査の結果からは復元されるマヤ堂のデザイン・スタイルについての資料が得られなかったため、ルンビニーマスタープランを作成した丹下健三氏に設計を依頼してはどうかを検討された。

各委員より、予算は大丈夫なのか、再勧募を行うのか等、意見が出たが、具体的復元案(設計図書)が出来てから詳細に検討することとなった。この結果は、同日開催された理事会へ報告されることになった。

LDI理事長(ネパール・スポーツ文化大臣)来局
十一月十日、シャラットシン大臣および駐日ネパール大使らが本会を表敬訪問した。席上、白幡理事長より大臣へ、マヤ堂復元事業の早期推進が要請された。

事務局録事

十二月一日

二日 局内会議

会長・副会長推戴委員会
常務理事会

三日、六日 WFB執行委員会出席

四日 戒名問題研究会

八日 京都府仏教連合会記念大会出席

岐阜県仏教会成道会参列

九日 西山浄土宗管長晋山式出席

東京都仏教連合会成道会参列

十日 局内会議

十一日 仏教とマルチメディア研究会

十二日 法律相談室

十九日 局内会議

哀悼

塩田義朗師(元全仏常務理事)
十月二十日、八十四歳で遷化
日蓮宗元宗務総長